

平成28年度  
日本医師会女性医師支援センター事業  
中国四国ブロック会議の報告

山口県医師会常任理事  
今村孝子



# 中国四国各県の取り組み

# 鳥取県

## ◇鳥取県医師会の女性医師支援◇

### 1) 情報発信

「JOY!しろうさぎ通信」(平成26年月～)  
毎月の医師会報に女性医師コーナーを設置

### 2) 相談窓口

「JOY!しろうさぎネット」  
県医師会ホームページに相談窓口を開設



### 3) 女性医師支援委員会設立

平成28年10月6日に第1回委員会を開催

東・中・西医師会でも交流会等を実施

## ◇鳥取大学医学部附属病院 学童保育の概要◇ (平成28年1月18日 開始)

**実施場所** 院内保育所(すぎのこ保育所)

### 実施内容

#### (1) 宿泊型

夜勤等に従事する際、家で子供を見る人が居ない場合  
月・水・土曜 15:30～翌7:30(日曜朝は10:00まで)

#### (2) 一時預かり型

利用中の学童保育の終了時間にお迎えが間に合わない場合  
平日 18:30～21:00



### 対象

本院に勤務する職員の子であり米子市の小学校※へ通う1～6年生

(※車で20分程度の小学校区を指定)

## 平成27年度島根県医師会男女共同参画フォーラム －医学生、研修医等をサポートするための会－

日 時 平成28年3月3日(木) 10:15～16:00

会 場 島根大学医学部臨床大講堂

主 催 島根大学医学部地域医療支援学講座、島根県医師会

共 催 日本医師会、島根大学男女共同参画推進室、島根大学医学部附属病院WLB支援室

対 象 島根大学医学部4年生

プログラム 1. キャリアについて考える

①グループワーク「妻の海外留学について」 発表・討論

②キャリアモデルの紹介

2. 島根大学男女共同参画の取り組み

3. 島根県「えんネット」の取り組み

4. 講演「日本医師会の取り組み～私達のやってきたこと～」

日本医師会女性医師支援センター副センター長 保坂シゲリ先生

平成28年度予定：平成29年3月2日(木)

## 岡山県医師会の女性医師支援活動

★H28年度より新しく始めました★

### 医師の勤務環境改善事業

(岡山県医師会医師の勤務環境改善ワークショップ)

病院での取り組み事例発表(2病院)・特別講演

女性医師に限らず、男性医師も含めた医師全員が働きやすい環境整備を行うことは、女性医師支援そのものであるという観点より、今年度からは例年行っていた「勤務医部会・女医部会合同総会」を、「医師の勤務環境改善ワークショップ」とし、医師の勤務環境改善事業に発展させた。

毎年、取り組み事例を2病院ずつ発表していただく予定。



#### 【継続して行っている事業】

- ★女性医師相談窓口事業
- ★保育支援事業
- ★学童保育支援事業

第1回  
岡山県医師会  
医師の勤務環境改善ワークショップ

平成28年7月23日(土) 14:00~16:00  
岡山県医師会館4階 第1会議室

14:05~14:50  
【医師の勤務環境改善へ向けた病院での取り組み 事例発表】  
(コメンテーター: 社会保険労務士 / 医療労務コンサルタント 佐田俊彦 先生)

①岡山市立市民病院 岡山市立市民病院内科主任部長 狩山和也 先生  
②岡山済生会総合病院 岡山済生会総合病院外科 総合医療長 診療顧問 岡山県医師会理事 大原利憲 先生

14:50~15:50  
【特別講演】 (日医生涯教育制度 CC1(0.5単位), CC7(0.5単位))  
「医師の勤務環境改善  
— これまでの取り組みと今後の課題 —」

日本赤十字社医療センター  
第二産婦人科 部長 きと みちこ  
木戸 道子 先生

医療を安全に安定的に提供し続けていくために、医療勤務環境改善は重要な課題です。日本医師会等での調査結果に基づき、勤務医の健康支援ならびに女性医師活躍推進についての具体的な取り組みを紹介します。

★託児室あります★  
ご希望の方は7/19(火)までにお申し込みください。  
会員専用駐車場は台数が限られておりますので、公共交通機関にてお越しいただけますようお願いいたします。

岡山県医師会

【お問い合わせ先】  
〒700-0024  
岡山市北区駅元町19-2  
TEL 086-250-5111  
FAX 086-251-6622  
公益社団法人 岡山県医師会  
(担当 赤堀 翔)

共催: 岡山県医療勤務環境改善支援センター  
後援: 岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT、NPO法人岡山医師研修支援機構、岡山県地域医療支援センター



## 医学生・研修医等をサポートするための会

仕事と子供のある生活 ～院内たんぽぽ保育園の経験を中心として～

広島大学病院 総合内科・総合診療科 篠田亮子 先生

女性医師に必要なものってなんだろう？ ～私の「困った！」解決法から考える～

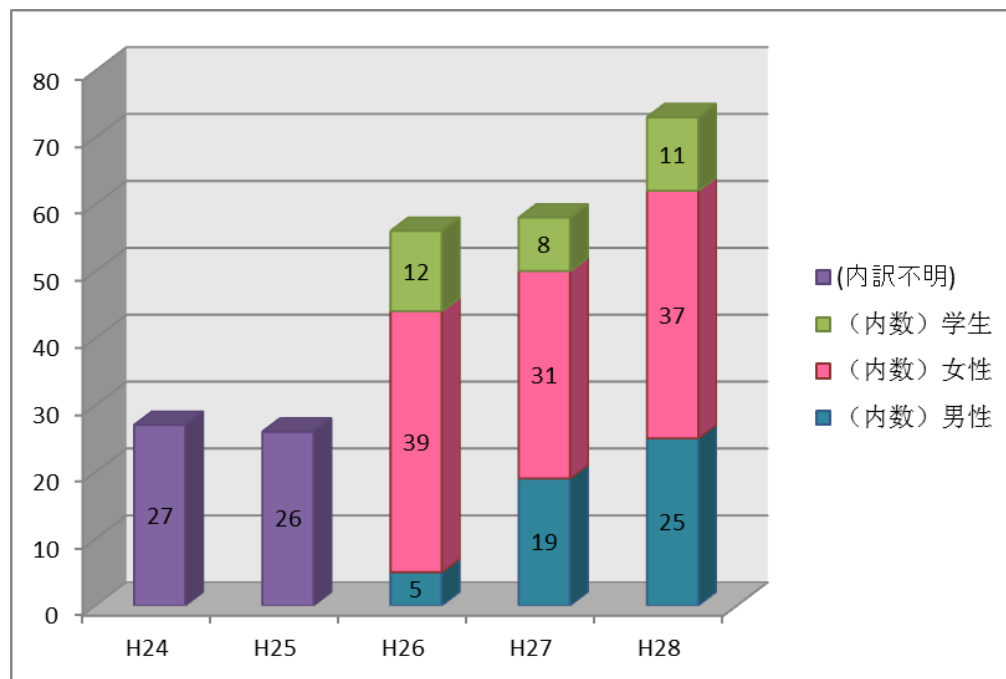
広島大学大学院 整形外科 助教 中島 祐子 先生

我が家の家庭事情 ～医師夫婦の二人三脚～

医療法人杏竹会 中島内科クリニック 院長 中島 英勝 先生

小児科医のキャリアプラン～勤務医を中心に～

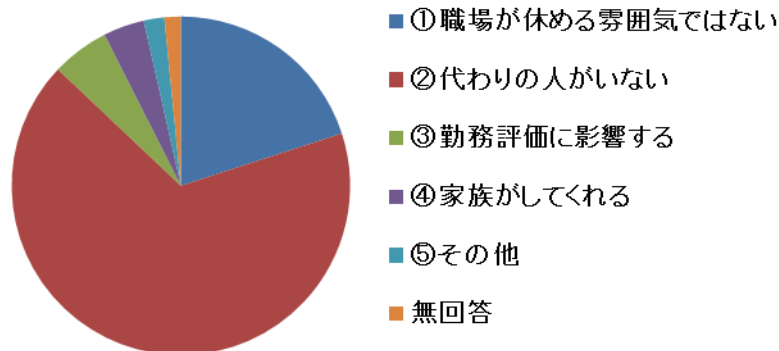
広島大学病院 小児科 診療准教授 川口 浩史 先生



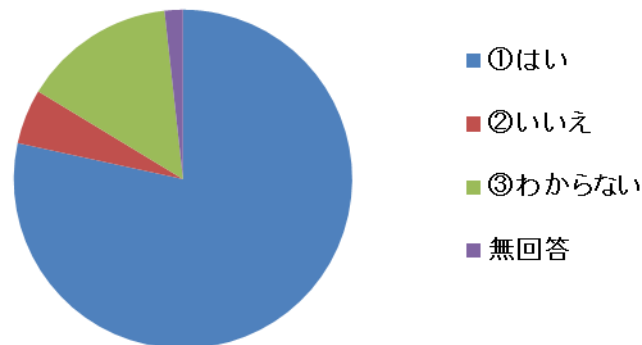
## 2016年徳島県男女共同参画委員会

- ・ワークライフバランスの実現には、仕事と育児の両立だけでなく仕事と介護の両立・支援も重要な問題である。
- ・平成29年1月1日育児・介護休業法が変わることを機に育児・介護に対する会員又基幹病院勤務医の意識並びに状況、実態を把握するためにアンケートを行った。
- ・今後女性医師のさらなる活躍を実現するためにも、育児だけでなく介護休業法も使いやすくする体制の確保が必要と思われる。

### 【介護休暇を取れない理由】



### 【介護は仕事に影響するか？】



# 香川県



**香川県医師会ドクターバンク  
普及グッズを作成  
今年度の「医学生、研修医等を  
サポートするための会」でも配布し、  
大変好評でした♪**



# 愛媛県

## 県内主要病院への病院長訪問

平成27年6月25日～平成28年12月16日までで、県内21か所の主要病院への訪問を行った



愛媛県医師会常任理事/女性医師部会長 今井淳子



## ◇「平成28年度 医学生・研修医等をサポートするための会」◇

平成23年から高知大学医学部医学生を対象に「医療現場における男女共同参画」をテーマで授業

- ・ 平成23年 5月10日(火) 4年生  
講師：稗田慶子氏  
(財団法人福岡県女性財団顧問 九州電力社外監査役)
- ・ 平成24年 6月18日(月) 1年生 講師：計田担当理事
- ・ 平成25年 7月8日(月) 1年生 //
- ・ 平成26年 7月14日(月) 1年生 //
- ・ 平成27年 7月13日(月) 1年生 //
- ・ 平成28年12月13日(火) 4年生 中澤担当理事
- ・ 平成28年12月16日(金) 1年生 計田担当理事

平成28年度  
中国四国ブロック会議アンケート

医師会員の係わる介護問題への  
県医師会の取り組み

# 都道府県別高齢化率

秋田県	32.6 (1)	香川県	29.2 (12)	福島県	27.8 (24)	大阪府	25.7 (37)
高知県	32.2 (2)	鳥取県	29.1 (14)	山梨県	27.5 (26)	千葉県	25.3 (38)
島根県	31.8 (3)	新潟県	29.1 (14)	岐阜県	27.3 (27)	栃木県	25.1 (39)
山口県	31.3 (4)	青森県	29.0 (16)	広島県	27.1 (28)	福岡県	25.1 (39)
和歌山県	30.5 (5)	長崎県	28.9 (17)	三重県	27.1 (28)	宮城県	24.6 (41)
徳島県	30.1 (6)	鹿児島県	28.6 (18)	石川県	27.1 (28)	埼玉県	24.0 (42)
山形県	29.9 (7)	宮崎県	28.6 (18)	佐賀県	27.0 (31)	滋賀県	23.4 (43)
愛媛県	29.8 (8)	北海道	28.1 (20)	静岡県	26.9 (32)	神奈川県	23.2 (44)
富山県	29.7 (9)	熊本県	28.1 (20)	京都府	26.9 (32)	愛知県	23.2 (44)
大分県	29.6 (10)	岡山県	28.1 (20)	群馬県	26.8 (34)	東京都	22.5 (46)
岩手県	29.6 (10)	福井県	27.9 (23)	兵庫県	26.3 (35)	沖縄県	19.0 (47)
長野県	29.2 (12)	奈良県	27.8 (24)	茨城県	25.8 (36)		[%]

・平成26年現在

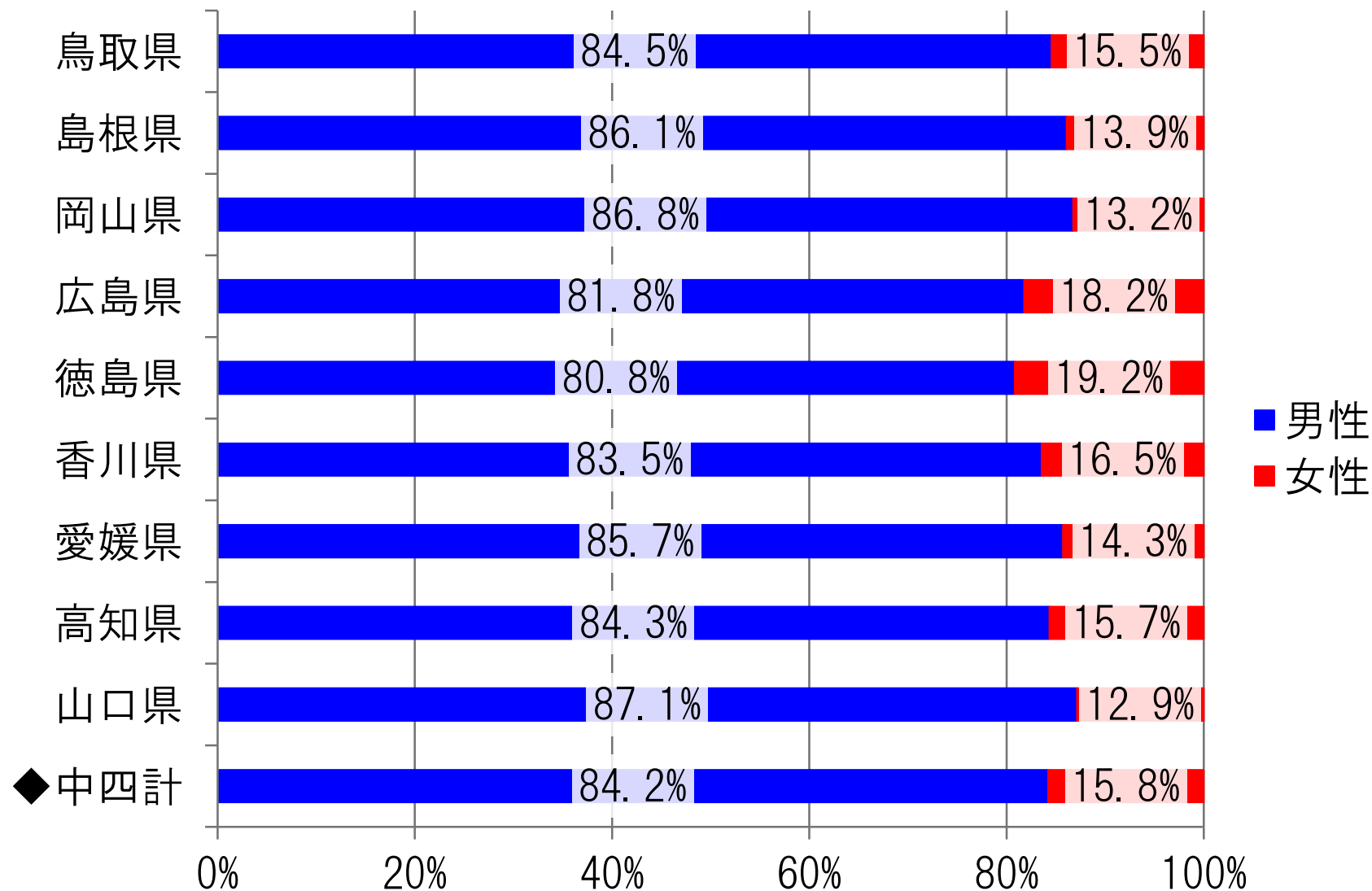
・平成28年版高齢社会白書【内閣府】より

# 中国四国各県医師会員数

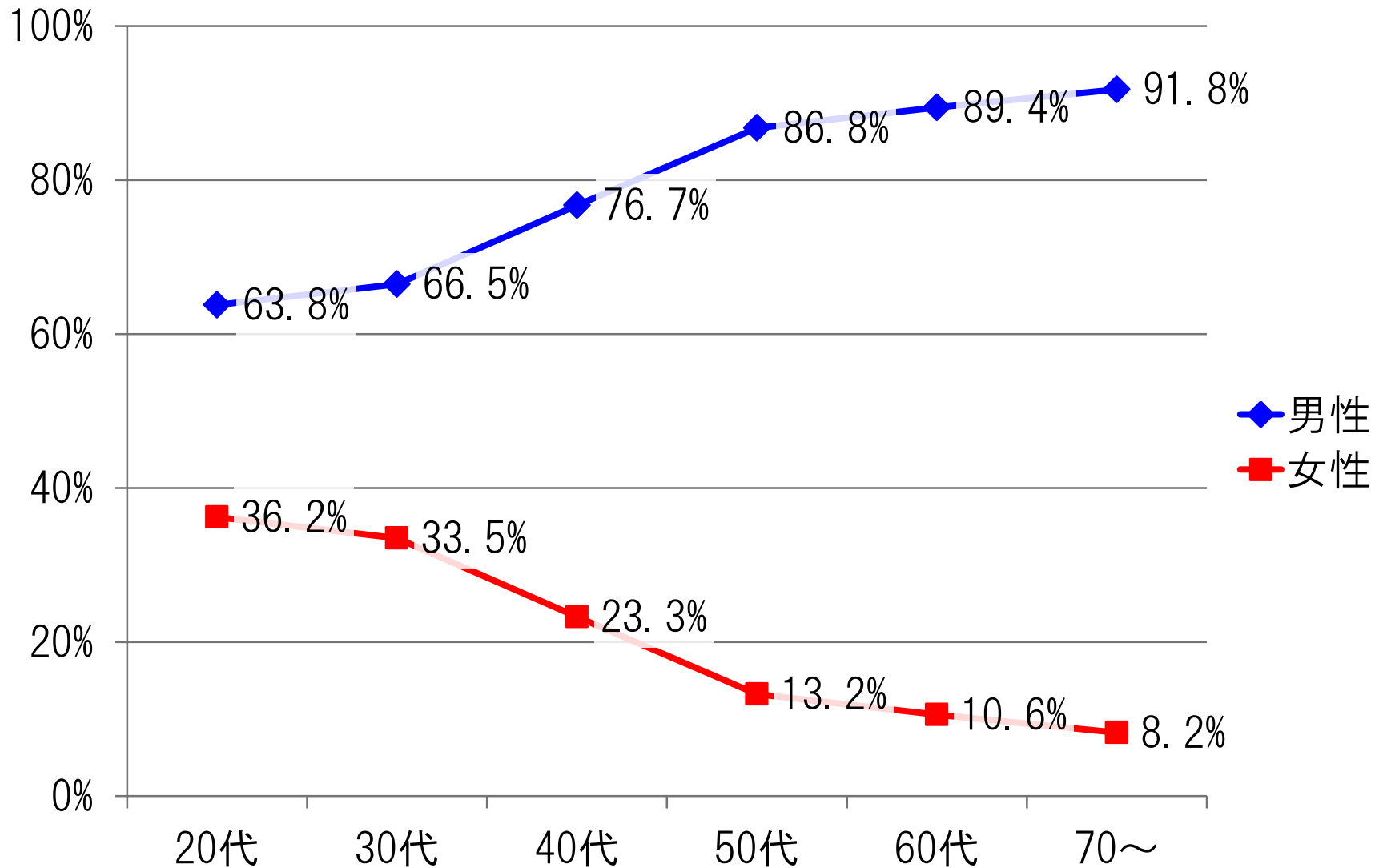
調査：平成28年9月

	男性							女性							男女計
	20代	30代	40代	50代	60代	70～	小計	20代	30代	40代	50代	60代	70～	小計	
鳥取県	41	81	191	303	316	244	1,176	21	37	63	39	30	25	215	1,391
島根県	12	36	133	286	305	198	970	1	16	51	46	28	15	157	1,127
岡山県	20	71	339	780	852	649	2,711	10	44	107	108	94	51	414	3,125
広島県	204	602	1,085	1,389	1,327	952	5,559	115	304	304	234	191	90	1,238	6,797
徳島県	4	36	161	285	429	299	1,214	2	35	85	71	64	31	288	1,502
香川県	33	71	272	480	466	318	1,640	21	48	86	73	55	40	323	1,963
愛媛県	59	181	469	723	653	454	2,539	28	81	137	94	61	22	423	2,962
高知県	15	36	172	361	316	236	1,136	19	14	55	58	32	33	211	1,347
山口県	40	134	358	634	576	511	2,253	26	50	77	77	64	39	333	2,586
中四計	424	1,212	3,019	4,956	4,811	3,562	17,984	241	594	880	729	555	315	3,314	21,298

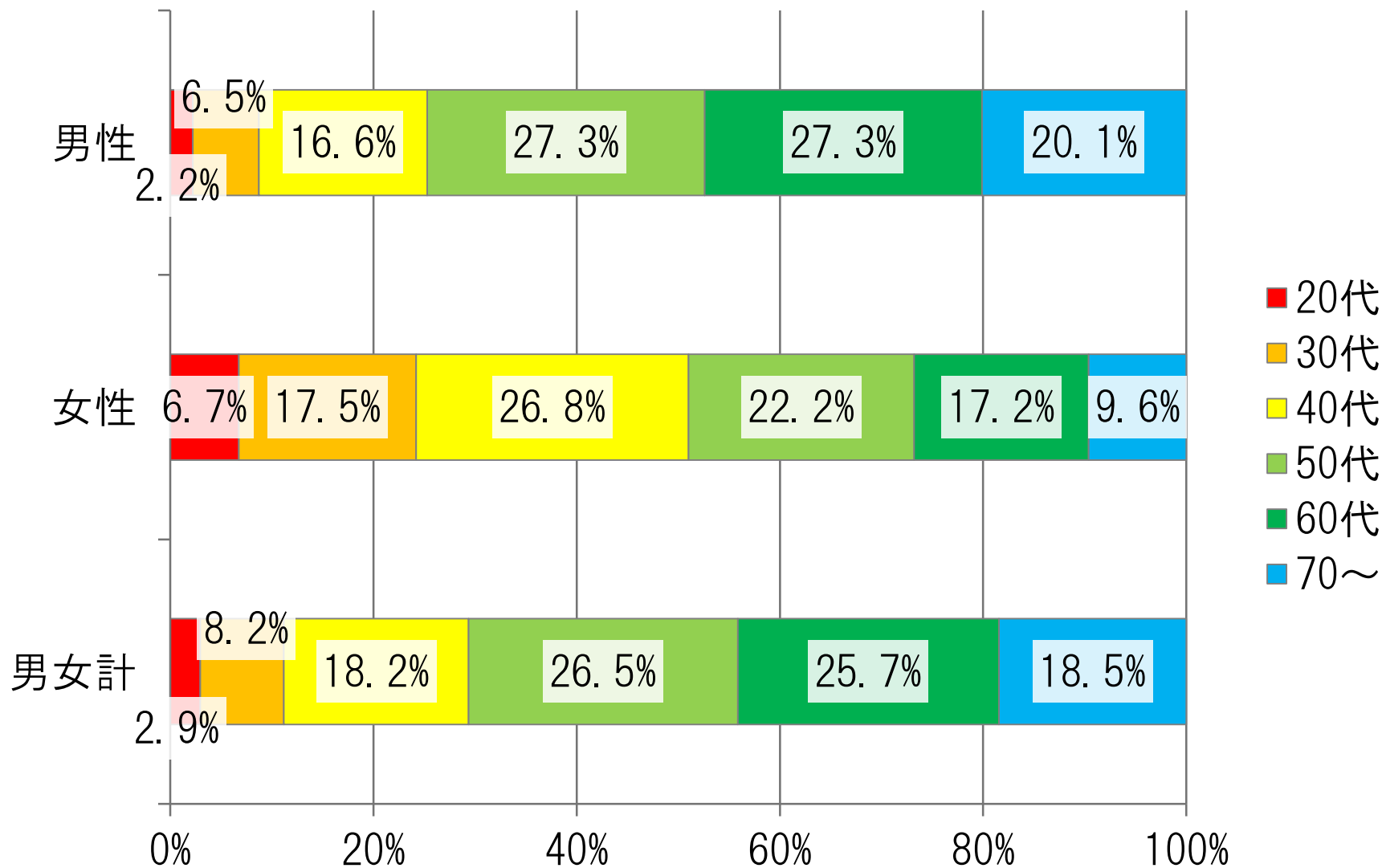
# 各県医師会員の男女比



# 年齡別男女比(中四計)



# 男女別年齡分布 (中四計)





# 介護に関する会員への実態調査

実施している . . . 2 県

H28-徳島

H26-山口

実施していない . . . 7 県

# 会員に対する介護支援の必要性

あり . . . 7 県

なし . . . 2 県

# 会員に対する介護支援の必要性

## 必要性ありの理由等 ①

- ◆ 今の所ないが、女性会員へのアンケート調査などで、支援の必要性が生じる可能性はある。
- ◆ 介護保険(受給者として)に関する情報、介護施設情報等を提供できる仕組みを構築したい。(山口県を見習って)
- ◆ 開業医の年齢層では介護に係わる年齢層が多数を占めており代診医師の確保や、休業補償など深刻な問題と考える。現状では家族のサポートが得られにくい女性医師も多く男性医師に比べ負担は多大である。勤務医に関しては基本的には出産・育児と同様介護休暇も今後整備されていく方向にあると思うが、医師不足の現状では他職種のように行かず男性医師女性医師共に介護休暇は取れていないのが実情である。

# 会員に対する介護支援の必要性

## 必要性ありの理由等 ②

- ◆ 管理職世代など職場にとって重要ポストにかかることが多くその離職は職場にとって大きな損失と思われる。その支援は難しい。大きな病院では対応できるかもしれないが、開業医など現状は厳しい。
- ◆ ・ 高齢化社会がこれからよりいっそう進んでいくと思われるため。  
・ 子育てと同様、介護も多大なる労力と時間を要し、医師としてのキャリア形成における障害の1つとなりうるため。
- ◆ これから育児を終了した女性医師が次に当面する問題として議論を繰り返していく必要があると思います。
- ◆ 育児と同様の支援の必要性は感じない。会員の介護状況や介護制度そのものの変化を見ながら、必要と判断した時点で検討したい。

# 自由意見 ①

- ◆ 出産・育児に対しては各方面で支援がなされているが、介護については、あまり議論されることが少ないように思う。中高年の女性医師から介護について苦労した体験談を聞く事も多いので、今後何かの対策、支援が必要と思われる。
- ◆ 内科開業医など介護保険にかかわりのある会員以外は医師といえども介護に関する知識は一般人と変わらない。介護に直面してから慌てるケースが多いので情報は持つておきたい。一方介護による休職、時短にも対応できる人事面のフォローも必要だと考えています。
- ◆ 介護休暇は、育児休暇取得に比べ使い勝手も悪く、取得率も低い。国は在宅医療に力を入れているが、子育てを手伝ってもらった恩のある親に対し、働きながらその親の介護をすることは難しく、さらに在宅となると厳しいのが現実である。男女問わずかかわってくる問題なので今後どのような策があるか、この委員会でも考えていきたい。

## 自由意見 ②

- ◆ 介護保険も年数を重ね充実してきました。  
介護に関しては、その分野に関わっている女性医師も含めて、出来るだけその道のプロに任せ、本人は医業に励む方がよいと考えられます。  
そのために、罪悪感を感じないで済む話し合いを平素から繰り返し行っていくことが大切と考えています。
- ◆ 高知県では、他県に比べると高齢者の療養環境等が整備されているため、介護における長期休暇および離職をする例はほとんどみられない。
- ◆ 平成26年に行ったアンケートでは、介護の精神的・身体的負担が大きいとの回答が多かった。また、自分が介護するという理想と、現実との間に差があることがわかった。医師という職業柄、仕事との両立のためには、公的以外のサービスを駆使せざるを得ない状況である。諸々の情報を得るためのサポートが必要と考える。